

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「分かる!」「できる!」学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック 活用事例

| 1 活用した項目(該当する内容は□を☑に変えて表示) | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方 | <input checked="" type="checkbox"/> すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例 | <input checked="" type="checkbox"/> 「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート |

2 活用場面

初期研修者への校内研修、全職員対象の校内研修、児童理解委員会や特別支援教育部からの提案時

3 活用対象

初期研修者、全職員

4 活用の詳細

(1) 全職員に、ハンドブックの紹介と、活用のお願いをする。

(2) チェックシートの活用(P32)

- ① 年度当初の学級経営・授業づくりなどに役立てる
- ② 7月・12月に振り返りを行い、校内での実践の達成度を評価する。十分でない項目(1~2項目)について、全職員で取り組んでいく。
※ その際、課題となっている項目の解決のために、ハンドブックを参考に説明を加える。
- ③ 学年での共通実践項目や、個人で力を入れたい項目を挙げ改善を図る。

(3) 児童の実態把握の方法の説明

- ハンドブックを使って、指導の前に実態把握をしっかりと行うことの大切さについて説明をし、子どもの自己評価のアンケートや教師の観察による実態把握の方法(※1)などを紹介し、取り組んでもらう。
※1 「特別支援教育コーディネーターハンドブック」(県発行)巻末の資料を参考に作成。表の後ろに支援状況の欄を設け、気になる児童についての支援検討へつなぐ。
※2 教師の評価と、子どもの自己評価が異なることがあり、指導を行っていく上で参考となった。
三者面談の際にも、アンケート結果を提示し、話に関連付けることができる。

(4) 初期研修で現在の悩みなどを出し合い、解決策としての説明を行う際にハンドブックを使用する。

(5) その他

- 校内教育支援委員会や特別支援教育研修会においての説明時に関連のある支援内容についてハンドブックを使用する。